「打つ」「打たない」は 自分で決める。

Nº14/ 2025.3

毎月 15 日配信 年間購読料3600円 (PDF版) 郵送・紙版5400円

#### ◆連絡先◆

**〒606-8186** 

京都市左京区一乗寺南大丸町9-203 ロシナンテ社 電話・FAX 075 (406) 7791 e-mail shikatasatoshi@gmail.com

# ワクチントーク全国 2024

# コロナ禍とはなんだったのか ③ 終 この 4 年間を振り返って

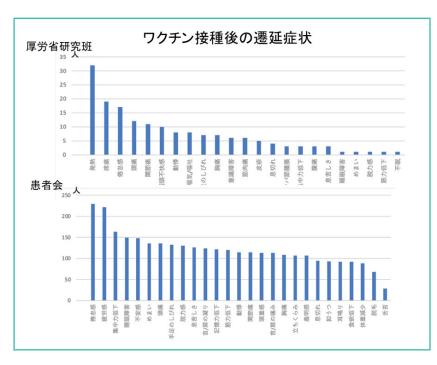
小島勢二さん(名古屋大学名誉教授・小児科医)

### 中・高校生におけるコロナワクチン後遺症の実態

コロナワクチンの後遺症は成人だけではなくて中・高生にとっても大きな問題です。日本小児科学会誌に、小児感染症専門医グループが 2024 年の 4 月号に、中・高校性におけるコロナワクチン後遺症の実態という論文を発表しました。

患者の会もほとんど同じような調査を実施しています。対象とした人数も 46人、44人とほぼ同じです。小児感染症専門医のグループの研究では、頭痛、倦怠感、発熱などの遷延症状が多く見られました。それに対して、患者の会のアンケートで多く見られたのも、倦怠感、疲労感、頭痛で変わりません。

専門医グループの論文では、 症状の持続期間は、1週間から 17カ月、平均5.2カ月で、3分の 1に、改善が見られました。と ころが、患者会のアンケートで



は、全員が1年以上続いており、 7割が2年以上続いていました。 治癒は5%にしか見られない。 ずいぶん違います。

専門医のグループの診断名で 上位なのは、慢性頭痛、心身症、 解離性神経症状反応などです。 これに対して患者会の診断名で 上位を占めたのは、起立性低血 圧、慢性疲労症候群、自律神経 失調症などでした。専門医グルー プと違って器質的な疾患である ギランバレー症候群、膠原病、 ネフローゼ、関節リュウマチ、 自己免疫性脳炎も含まれていま した。



専門医グループの論文では、以下のように考察されています。

――多くは従来から思春期によくみられる症状が主で、一般小児科医でも対応可能であるが、場合によって、児童精神科や不登校外来への紹介が望ましい。

反ワクチンの情報はインターネット、本、メディアなどで氾濫していて、巧妙に反ワクチンの主張を 自然志向、陰謀論などの概念で隠して拡散しようとしている。陰謀論は政府や製薬企業などの巨大組織 に対して弱い被害者という対立構図を作り出して、存在しない善悪のストーリー性を持たせて反ワクチンを訴える。世界的みられる古典的な手法である。

学会誌に反ワクチン、陰謀論と書いていることに違和感があります。学会誌に掲載しているのだから、 日本小児科学会はこの考えを肯定していることになります。この論文は、ワクチン忌避に対する対応を 論じたものです。でも、こんなふうに書かれると患者さんや家族は医師に対して不信感を抱きかねない ですね。

# 患者家族が不信感を抱いた医師の言葉

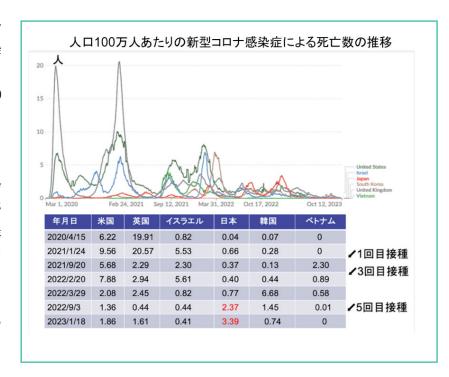
患者の会のアンケートには、患者家族が不信感を抱いた医師の言葉が羅列されています。

- ・子宮頸がんワクチンのときには嘘をついていた人もいるのですよ。コロナワクチン後遺症なんてもの は存在しない。
- ・勉強のストレス、受験のストレスで心因性だ。
- ・1回目のワクチンを打ってから胸が苦しく高熱が出ていると説明したのに聴診器すらあててくれない。 様子を見て、2回目もちゃんと打ってねと言われた。
- ・スマートフォンのしすぎだ。精神科を受診するように。
- ・国に頼まれて打っただけだから、何かあるなら国に言ってくれ。
- ・ワクチン接種による後遺症疑いの診断書は出すが、学校以外に出せば、医師が続けられなくなるので、 薬害などの申請をしないように約束してくれ。
- ・現在はワクチン後遺症とは認められないが、国が変われば後遺症と認めることに協力する。

これらの言葉は、国がコロナワクチンの後遺症はないとしていることで、如何に現場が混乱している のかを示しています。大変な思いをしている家族が多いことがよく分かります。

## 日本におけるコロナ感染対策の検証

コロナウイルス感染症対策分 科会の会長として、日本の感染 対策を主導した尾身茂先生が、 この4年間を振り返って「1100 日間の葛藤」という本を出しま した。尾身先生は、名古屋にも 来られましたが、全国を廻って、 講演会を開いています。講った会 では、「コロナのパンデミッ言を提 った頃、緊急事態宣言をの おかげで日本は諸外国に比でで をいることがで をした内容を話しているようです。



よく考えれば、パンデミック

が始まった頃、諸外国はロックダウンをしたのですね。緊急事態宣言どころではありません。それでも、アメリカやヨーロッパ諸国の死者は日本の 100 倍以上です。どう考えても、尾身先生の言っていることが正しいとは思えません。

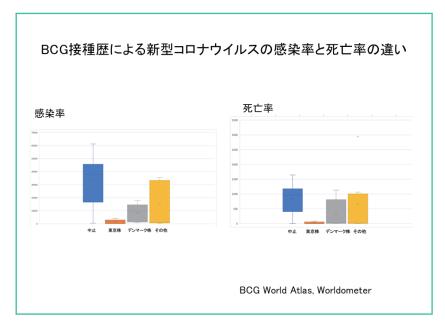
この 4 年間の人口 100 万人あたりのコロナ感染症による死亡数の推移です。2020 年の 4 月、まだワクチンを打つ前です。この時、人口 100 万人あたりの死亡数は、アメリカが 6.2、イギリスが 19.9、日本は 0.04でした。実に、日本はイギリスの 500 分の 1 の死亡率でした。日本だけではなく、韓国も 0.07、ベトナムはゼロでした。

ところが、ワクチン接種後の 2022 年9月になると、日本はアメリカやイギリスを凌いで、世界で一番 人口 100 万人あたりの死亡数が多い国になりました。

2023年に発表された論文の内容です。ワクチンには生ワクチンと死菌ワクチン(不活化ワクチン)の

2種類がありますが、生ワクチンの代表的なものが BCG です。 BCG は打つと免疫全体がトレーニングされるので、標的となる 結核だけでなく、他の病原菌も 予防できることが分かってきました。

それに対して死菌ワクチン、もちろんコロナワクチンも含まれますが、標的にする病原体は 予防することができるのですが、 それ以外の病原体にかえって かっかりやすくなるという問題 点があることが分かってきまし



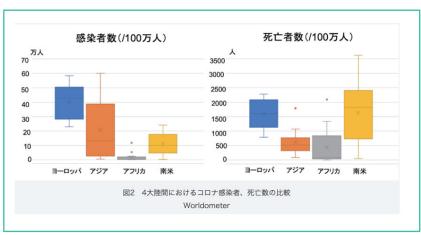
た。特にコロナワクチンに関しては、頻回に接種するとコロナウイルス自体の感染も増やしてしまうことが分かってきました。

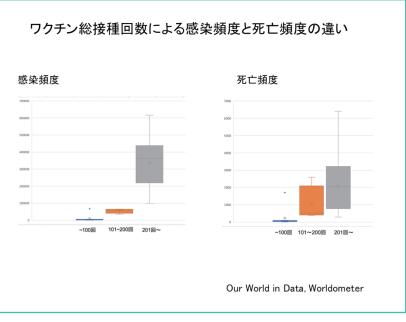
そこで、BCG に注目して BCG の接種歴とコロナの感染率、死亡率の関係を調べてみました。これは ワクチン接種が始まる前の 2020 年において、BCG を接種した国と接種していない国の感染率と死亡率 を比較した結果です(3 P下図)。BCG には何種類かありますが、日本で使われている BCG は東京株です。 もともと、アメリカやイタリアは BCG を打っていません。イギリスやドイツも 20 年前から BCG を打っています。感染率も死亡率も、東京株を打っている国は、打っていない国に比べたら 100 分の 1 以下です。

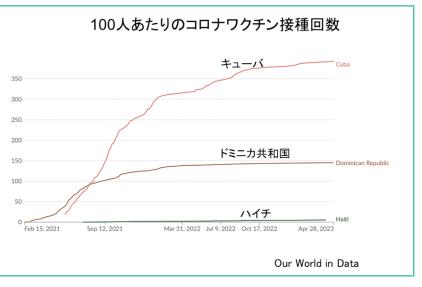
2020年の頃は、ファクターX があるので日本はコロナ感染か ら守られているのだと言われて いました。いつのまにか、誰も ファクターXのことを言わなく なりました。ワクチン接種が始 まった 2021 年から 2023 年にお ける、ヨーロッパ、アジア、ア フリカ、南米諸国の感染者数と 死亡数を比較したところ、アフ リカ諸国が、感染者数も死亡数 も圧倒的に少なかったことがわ かりました。パンデミックの初 期の頃は、アフリカ諸国はワク チンが打てないから、これから 阿鼻叫喚になって大変なことに なると言われていました。振り 返ってみると、何もしなかった アフリカ諸国が一番、上手くやっ たのですね。アフリカ諸国はワ クチンを一番打ちませんでした。

次に、アジアの12か国に限って、ワクチンの接種回数が100回以下、200回以下、201回以上の国に分けて比較してみました。するとやはり感染率も死亡率も、201回以上の国が高いことがわかりました。

日本はこの201回以上の国の中でも一番、多く打っています。ワクチンの接種とコロナ感染との関係がよく分かるのがカリブ海諸国です。カリブ海にはキューバ、ハイチ、ドミニカがあります。みんな人口が1千万人程度の国です。ところがコロナへの対応が、3カ国で全然違っていま

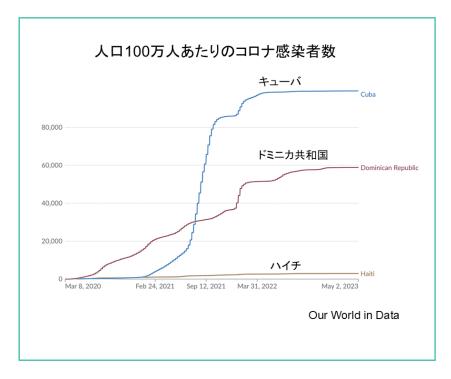






した。キューバは日本と同じくらい、世界で一番、一人あたりワクチンを打ちました。隣国なのにハイチはほとんどワクチンを接種しませんでした。ドミニカはその中間でした。それでどうなったか。

コロナの感染者数はワクチンを一番打ったキューバに対してほとんど打っていないハイチが30分の1以下でした。ドミニカはその中間です。ワクチンを打てば打つほど感染者数が増えています。死亡数についても同じことがみられました。ハイチはPCR 検査をやらなかったから感



染がわからなかったのではないかとよく言われます。そこで超過死亡を調べましたが、同じような結果 でした。

この4年間にコロナワクチン接種がこの国に何をもたらしたかを、国や専門家がいろいろと言っていますが、データに基づいて検証すると疑わしいことが多くみられます。公開されたデータは嘘をつきません。マスメディアが伝えないことがもっと恐ろしいです。こういう時代で自分や家族を守るためには、国や専門家がいうことを鵜呑みにしないで、自分できちんと調べることが必要です。今回示したワクチンのロットと予後との関係をここまで詳しく調べた報告は、まだ世界でもありませんが、一般市民が情報開示を請求したことで明らかになりました。全国の数カ所の自治体で同じような結果が出れば、まず、間違いないと思います。

日本は、国や専門家の意見に従い、国民の80%がコロナワクチンを接種しました。100兆円を超えるコロナ対策費と60万人に達する超過死亡を記録したのにもかかわらず、現在も、コロナの流行が終息していない世界でも数少ない国です。結局、ワクチンの接種はわが国に何をもたらしたのでしょうか。今こそ、コロナに翻弄されたこの4年間に、国や専門家が、国民に語ってきたことを検証する時期ではないでしょうか。(おわり)(こじま せいじ) ※2024年10月13日(東京)での講演より

#### あとがき

子宮頸がんワクチンは2013年4月1日に予防接種法の対象疾病に認定、定期接種A類となりました。この時から十代の女子に接種が始まったのです。その直後から失神や疼痛、急性散在性脳脊髄炎(ADEM)やギランバレー症候群、記憶障害、倦怠感などの訴えが多発しました。厚労省はその年の6月13日に「積極的勧奨」の中止を決定しました(その後、コロナ禍の2022年4月に再開。男子にも接種を勧奨)。被害

者らは立ち上がり、2016年夏、東京、名古屋、大阪、福岡で集団訴訟を提訴しました。最近、わたしはその傍聴に通っています。被告側専門家の証人尋問が続き、被害者の症状は「気のせい」「思春期には誰にでも出る」ものと証言しています。戦後の予防接種・薬害裁判で繰り返された映像を見ているようです。マスメディアはこの訴訟をほとんど無視。お近くにお住まいの方、是非、傍聴に出かけてみてはいかがですか。(S)

#### お問い合わせ・お申し込みは一

〒 606-8186 京都市左京区一条寺南大丸町 9 -203 携帯 090 (5642) 2308 E-mail shikatasatoshi@gmail.com 入金先

ゆうちょ銀行 郵便振替口座 01080-6-42151 (当座 一〇九店 42151) 三菱 UFJ銀行出町支店(普通) 4008047 名義 ロシナンテ社